

特集 乗って守る地域公共交通

～三島市の地域公共交通の今～



問合せ 地域協働・安全課 ☎ 983・2701

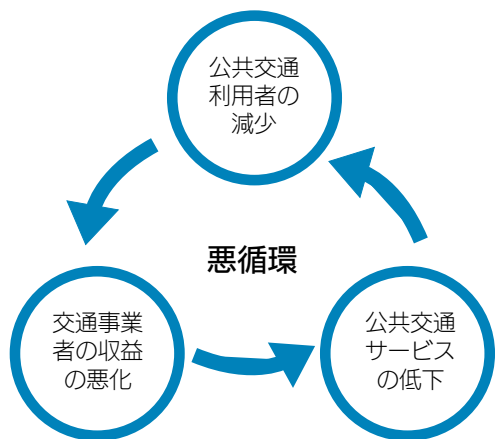
■ 苦しい地域公共交通の現状

皆さんは最近、バス、タクシー、鉄道を利用していますか。三島市内の地域公共交通がコロナ禍の影響もあり、利用者が減少し、現状の交通網を維持することが困難となっています。各事業者は人口減少社会を見据えて、将来的な利用客減少に備えていきましたが、突然の利用客の大幅な減少に直面し、このままの状況が続くと地域公共交通の存続に影響が及ぼしかねません。この特集では、私たちの暮らしに欠かせない存在である地域公共交通の魅力や必要性について改めて考えます。

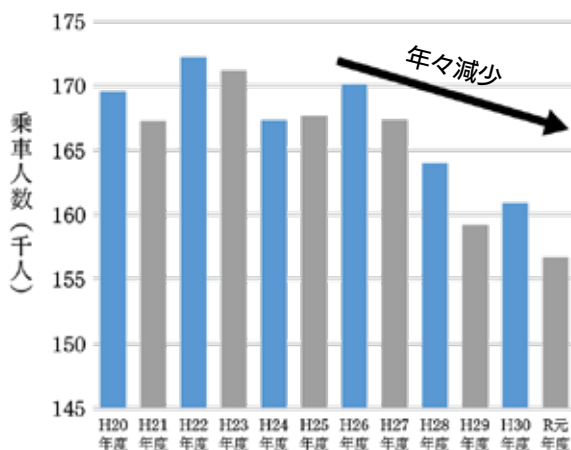
■ 地域公共交通は街の血液

「学校に行こう」「病院に行こう」「買い物したい」といったように、人が何かをするには移動が伴います。地域の人々の移動が活発になれば街はうるおい、魅力の向上にもつながりますが、反対に停滞してしまうと、街全体が衰退していきます。そうした流れを作る地域公共交通は人間で例えると血液のような重要な役割を担っていると言えます。

地域公共交通の負のスパイラル



三島市コミュニティバスの乗車人数の推移





Column

実はこんなにある 地域公共交通の魅力

地域公共交通が整備されていると、様々な効果があります。例えばバス路線があることで、沿線住民の移動機会が増え、健康増進につながります。健康な人が増えれば、医療費や介護費の削減につながります。このように様々な分野へ、プラスの効果を波及させる魅力が地域公共交通にはあるのです。

環境保全

バスであれば二酸化炭素の排出量は、自動車の半分以下になります。



渋滞の緩和

マイカーの利用者が減少すると交通量が減り、渋滞の緩和につながります。



地域公共交通のメリット

事故リスクの回避

自動車に比べ、安全に目的地まで行くことができます。



健康増進

バス停や駅からの移動で歩く機会や距離が増え、日常的な運動量が増えます。



■ 走らなくなった後では遅い
 今皆さんの目の前を走っている地域公共交通は年々利用者が減少しており、特にバス事業に関しては採算が取れない路線について、経営のため運行本数を減らし、経費の削減を図ります。さらに状況が悪くなると、利用の少ない路線は廃止となる場合もあります。仮に明日からバス路線がなくなったら、通勤・通学・通院・買い物等の日常生活を送ることに支障をきたす多くの人を生んでしまうこととなります。

■ 三位一体となって守ろう
 自分やお住まいの地域の将来を考へ、「自家用車」と「地域公共交通」の使い方を見直してみる必要があるかもしれません。利用者が減少し続ける中、事業者の努力や自治体の財政支援にも限界があります。地域公共交通の未来は「今」の私たちの行動にかかっていると云えます。一人ひとりが、日常生活の中で地域公共交通の利用を考えていくことが大切です。



コミュニティバスについて

経路検索アプリでますます便利に！

目的地への経路検索アプリが、「ジョルダン乗換案内・NAVITIME」に加え、新たに「グーグルマップ」、「Yahoo!乗換案内」、「駅すばあと」に対応しました。経路検索アプリを利用して外出先などで便利なコミュニティバスをぜひ、ご利用ください。
 ※せせらぎ号は一部対応していないアプリがありますが、11月中には全て導入予定です。



三島駅南口では

デジタルサイネージで運行情報がすぐわかる！

伊豆半島の玄関口として重要な役割を果たしている三島駅にバスへの乗り換えを便利にするため、デジタルサイネージ（電子看板）を設置しました。また、同時にバス停にサイネージの案内と連動したカラーリングを施し、バスが、いつ、何番乗り場から発車するのかが大変わかりやすくなりました。時刻表や携帯電話がなくても確認ができます。

